

# 豊かな海ってなんだろう？

## どんな魚がいるのかな？ 砂浜のやくわりは？ 海の色ってホントは何色？

豊かな海。豊かさには色々な形がありますが、本当の意味での豊かさ、そして、豊かな海とはどんな海でしょうか？

私たちが暮らす兵庫県の海では、瀬戸内海のイカナゴ、タコ、ノリ、日本海のホテルイカ、ズワイガニ、ハタハタなど、色々な美味しい魚介類がたくさん獲られています。



海では、森や街から川を通して流れ込む豊富な**栄養**が**海藻**や**プランクトン**の糧となり、**プランクトン**を**小さな魚**が食べ、**小さな魚**を**大きな魚**が食べながら、海の生き物が育まれています。そして、育まれた魚介類を漁業者が獲って、私たちは美味しい魚介類を食べています。

また、海は、生き物を育むことだけでなく、美しい水辺での生き物とのふれあい、砂浜や干潟（ひがた）・藻場（もば）による水質の浄化や二酸化炭素の取り込みなど、様々なはたらきをしています。こうした海のはたらきが、私たちの生活を支え、豊かさをもたらしています。



海の漁業生産および生態系維持にとって、適切な濃度の窒素・リンは必要不可欠で、栄養レベルが高いほど豊かな漁業生産が期待できます。しかし、陸から海に注ぐ栄養塩量が過剰になると、夏の赤潮や底層の貧酸素等により底生生物に悪影響を与えます。一方、陸から海に注ぐ栄養塩量が不足すると、生物生産性が低下して漁獲量の減少や海藻の色落ちなどの問題が生じます。つまり、海の栄養は過剰でも不足でも障害があり、両者の間に適切な栄養レベルがあると考えられています。  
(水産用水基準2018年版)

今、私たちの海は、昔と比べてきれいな水質になりました。  
 けれども、海の豊かさを支える窒素やリンなど、陸から海へ流れる栄養が減少しすぎて、海の中の栄養が少なくなり（貧栄養化）、海の生き物が育ちにくくなっていることを知っていますか？ あなたの近くの海でも海の豊かさが失われ始めています。

## 海の栄養塩（窒素やリンなど）

※窒素やリンは、汚れではなく、海藻や植物プランクトンの『栄養』です。

### 適正な栄養

### 貧栄養

貧栄養になると・・・

透き通った海になります。

砂浜では、貝（アサリ等）や魚のエサになる生き物（ゴカイやカニ等）を見かけなくなります。



海藻（ノリ・ワカメ等）の色がつかなく（黄色く）なり、美味しくなくなります。



貝は痩せて美味しくなくなります。痩せすぎると死んでしまいます。



魚は痩せてしまったり、少なくなります。



※画像はイメージです。

ひょうご豊かな海発信プロジェクトでは、海の様々なたらきを見つめ直しています。たくさんの恵みを得ることができる私たちの「豊かで美しい海」を実現するために必要なことを、県民のみなさんと考えていきます。森、川、街、海、魚、人、そのつながりの中で私たちが生きていることを・・・

「豊かで美しい海」を明日へつなぐ取組みに参加してみませんか？



作成：ひょうご豊かな海発信プロジェクト協議会  
 （構成団体：兵庫県、神戸市、明石市、兵庫県漁業協同組合連合会）